

国政の基本問題で徹底審議し、争点を明らかにして、信を問え!

——“ボロ隠し解散”は、民主主義の常道に反する——

「近所のみなさん、日本共産党です。」

自民党総裁選挙の結果、麻生太郎氏が、新総裁に選ばれました。連日のように報道された、総裁選挙を通して、誰が総裁になっても、暮らしがよくなる保障がないと、感じた方が、多かったのではないのでしょうか。

実際、麻生氏も、他の四人と同じように、大企業ばかり応援して、国民に痛みばかり押しつけてきた、「構造改革」への反省が、全くありませんでした。海外派兵の継続でも、五人共通でした。国民に信を問う、解散・総選挙を行うのは、当然です。

その際、国政の基本問題について、予算委員会などで、徹底審議して、争点を明らかにする必要があります。そうでなければ、「ボロ隠し解散」と言われても、仕方がないのでは、ないのでしょうか。

みなさん。

今、切実に問われているのは、若い人たちを中心に広がる、貧困・「ワーキングプア」を、無くしていくために、どうしたらよいかということなのです。

毎日、毎日、あした仕事があるのかどうかわからない、いつ止めさせられるか不安でしかたがない——こういう働かせ方をされている青年が、たくさんいます。

人間を使い捨てにする働かせ方を、「新時代の日本的経営」だなどといって、広げてきた、財界・大企業と、そのいいなりになってきた、自民・公明の政治の責任は、本当に大きいのではないのでしょうか。

九十九年に、派遣労働を原則自由化した、労働者派遣法の大改悪が行われた時は、民主党まで賛成しました。反対したのは、日本共産党だけでした。

財界・大企業の横暴とたたかう、日本共産党といっしょに、労働者派遣法の抜本改正など、人間的労働のルールをつくって、正社員への道を広げさせようではありませんか。

みなさん。

十月にまた、年金天引きが行われる、後期高齢者医療制度を、どうするのが、問われています。社会保障予算の自然増分を認めないで、毎年毎年、二千二百億円ずつ減らし続け、あげくの果てに、七十五歳以上のお年寄りに、差別医療——こういう政治を、続けさせるわけにはいきません。

お年寄りをいじめ、社会保障をどんどん悪くしてきたのも、社会保障の負担が増えるのを嫌がる、財界・大企業と、そのいいなりになってきた、自民・公明の政治です。

二〇〇〇年、健康保険法改悪の際にあげられた、「付帯決議」で、後期高齢者医療制度の原型——高齢者を囲い込み、医療を制限する、「別立て」と「包括払い」——がもりこまれたときは、民主党まで賛成しました。このとき、キツパリ反対したのは、日本共産党だけでした。

後期高齢者医療制度廃止のために、一貫して頑張る、日本共産党を応援してください。

みなさん。

社会保障の財源をどうするかが、問われています。

不安定雇用の広がりや、国民の収入は、減る一方です。ところが、税金や保険料の負担は増える一方——これでは、生活は、苦しくなるばかりです。

一方、トヨタ自動車など、大企業は、バブルの時の二倍近い利益をあげています。ところが、納める税金は、増えるどころか、減っているか、横ばい——減税を、し過ぎたからです。こんな不公平はありません。

大企業への行きすぎた減税の見直しで、医療・社会保障の財源を、つくらせようではありませんか。

アメリカいいなり政治を改め、自主的な外交で、年間五兆円にのぼる軍事費を、減らせようではありませんか。米軍支援の給油活動は、やめさせ、インド洋から、自衛隊を、撤退させましょう。

そうすれば、消費税増税の必要はなくなりませう。

「近所のみなさん。」

いよいよ間近に迫った、解散・総選挙。政治の自身を大本から変える選挙です。大企業中心・アメリカいいなりの、異常な政治のゆがみを正す、日本共産党を、よろしく願います。